

大麦焼酎発酵濃縮液を利用したジャガイモそうか病発生リスク低減栽培技術

大麦焼酎発酵濃縮液の種いもコーティング処理または大麦焼酎発酵濃縮液と米ぬかの混合有機質肥料の使用で、種いも表面や土壌中の有用微生物が増加し、ジャガイモの可販収量が増加する

背景・目的

- ・ジャガイモそうか病防除にはクロルピクリン等の土壌燻蒸剤消毒，化学農薬による種いも消毒等を実施
- ・これらの資材は，周辺環境・コスト面・廃液処理等，様々な問題が有り
- ・化学合成農薬に頼らない，環境に優しいバレイショ栽培技術の検討が必要

成果の内容

①大麦焼酎発酵濃縮液種いもコーティング処理法

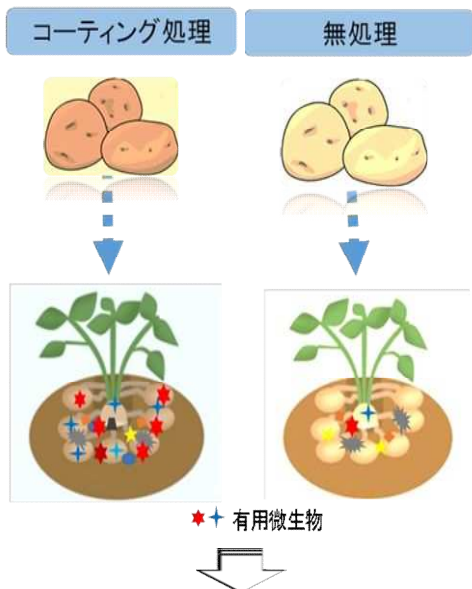
①大麦焼酎発酵濃縮液
5倍希釈液を準備



②種いも全体にコーティング
処理して風乾するだけ！



①+②=土壌中や種いも表面の有用微生物が増加！



Streptomyces属菌：約2.3倍増
Bacillus属菌：約2倍増

導入メリット

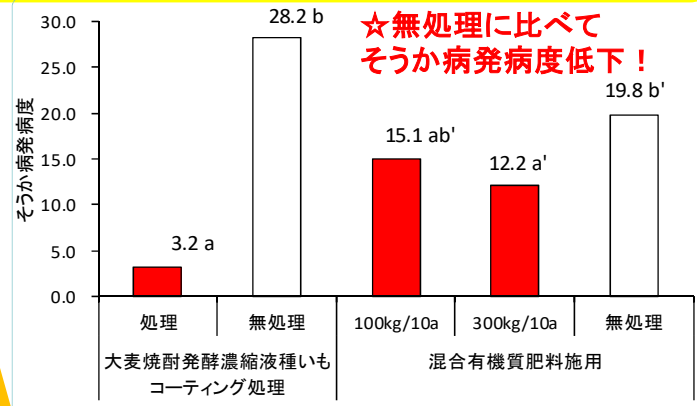


図1 大麦焼酎発酵濃縮液種いもコーティング処理、混合有機質肥料施用によるそうか病発病度

②混合有機質肥料100~300kg/10a施用

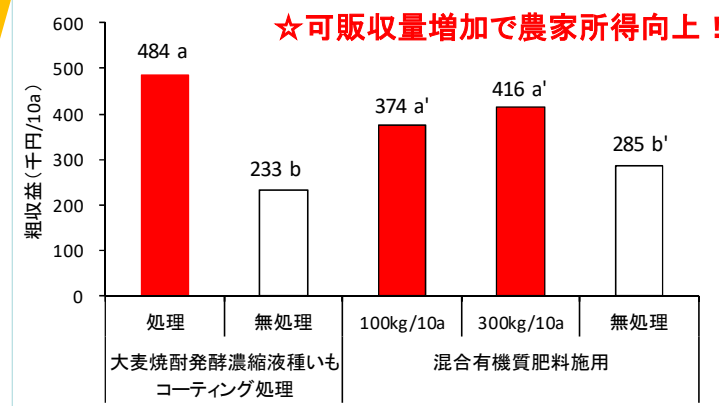


図2 種いもコーティング処理、SSM施用と粗収益の関係

期待される効果

- ・バレイショそうか病の減少により可販収量が増加し，農家所得も向上する
- ・バレイショブランド産地の維持発展につながる

普及対象範囲
青果・加工用バレイショ産地